



サケは、どうして、海で大きくなり、卵を産むとき川に帰るの

サケは、まだなぞの多い魚

サケは、本当は海の魚なのか、川の魚なのかということは、学者によって、いろいろな考え方があり、まだ、はっきりしていません。なぜ、わざわざ、海から遠い川へもどってきて卵を産むのかという理由も、いろいろな説があつて、はっきりしていません。

サケは、もともと海の魚だったのが、敵の少ない川にやってきて卵を産むようになり、サケの仲間のヤマメやイワナは、海に帰らないで、そのまま、川や湖でくらすようになったという考え方があります。

氷河期のころ現れた、川の魚という説もある

サケの先祖は、6000万年前ごろ、さまざまな魚が現れて世界の各地に広がったとき地球上に現れたといわれています。100万年前ごろ、寒い氷河期が何回かあったころ、冷たい真水(川の水)でくらすように進化した、サケの先祖が現れたと考えている人もいます。そして、サケのいた寒冷地では、川にはえさが少なく、えさを探し求めて、海に出るものが現れはじめ、今のような、生活の大部分を海でくらすサケになったと説明されています。でも、もとは、川で生まれた魚なので、産卵のときだけ、昔と同じように川に帰ってくるというわけです。

サケの仲間のヤマメは、川でくらしますが、北日本や日本海側地方では、メスは、卵からかえて1年半後には、サケのように海に下るもののがかなりいます。そして、産卵のときだけ、また、川の上流へもどってくることが多く、海に出て体が大きく育ったヤマメのメスは、サクラマスとよばれます。オスは一生川でくらしますが、暖かい地方では、メスも川を下りません。(監修・安部 義孝)

